

R5-09

学校運営協議会（CS）と連携した防災訓練の取組

- 管内 後志管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（社会科） 道徳 総合的な学習（探究）の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 生徒が当事者意識をもち、主体的に防災訓練に参加する工夫
- 2 生徒が震災学習で学んだ防災先進事例について、地域へ提言
- 3 地域ごとで起こりうる災害リスクを想定した災害図上訓練（DIG）の実施

取組の実際

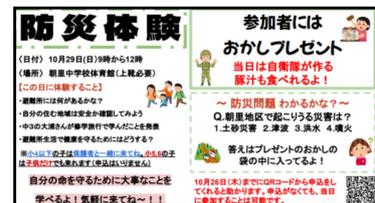
ねらい

- 防災訓練を通して、生徒が地域住民と防災に対する考えを共有し、被災・復興の際に率先して行動できる「地域の担い手」となるための素地を育む。

内容

1 クエストメンバーによる運営への参画

「あさりクエスト」と銘を打ち、中学生が運営スタッフとして参加する機会を設けることで当事者意識を高め、主体的に防災訓練に参加する試みを行った。クエストメンバーとして参加した中学生は、小中学生の参加者を増やす工夫と、その具現化について協議をし、運営に参加した。



【生徒が作成した小学生用のチラシ】

2 震災学習の報告

本校第3学年生徒が東日本大震災の被災地を訪問し、震災について学んだことを防災訓練の参加者に報告した。被災地域と本校で行われている避難訓練を比較し、地域の防災意識を高める方策として「地域全体が参加した避難訓練を実施する必要がある」と提言した。



【重ねるハザードマップから】

3 DIG（災害図上訓練）の実施

「重ねるハザードマップ」（国土地理院）から、町内会ごとに起こりうる災害リスクについて参加者同士で共有を図った。また、地震発生後から避難所へ移動するまでのタイムラインを考え、被災時の行動の在り方や避難所に持参する持ち物の確認を行った。

演習は、グループに幅広い年齢層が配置されるよう工夫するとともに、CS運営委員会の構成員が各グループに入った。町内会ごとに地図を用い、災害危険箇所や避難場所、災害時要援護者の住んでいる場所などを可視化しながら確認作業を行った。

参加者からは、「災害時の共助の在り方を考えることができた」「幅広い年齢層で協議したことで、自分では思いつかなかった多くの気づきがあった」などの感想が寄せられた。



【DIGの様子】

成果と課題

- 当日は175名（小中学生65名、地域98名、教職員12名）が参加した。中学生が幅広い年齢層の地域住民と交流したことで、地域のことを改めて見つめ直すきっかけとなり、次世代の「地域の担い手」としての素地を育むことができた。
- 地域を巻き込んだ持続可能な防災訓練を続けていくため、活動の主体を学校から地域へと移行していく必要がある。